



HOUSE PLUS

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成30年1月30日

接合部性能試験成績証

受付日：平成29年1月30日
受付番号：HP17-KT023東京都港区芝5-3-7
徳栄ビル本館4階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 柳澤恒雄

1. 接合金物名称	FHD-50
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9 株式会社 ダイドーハント 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心斎橋1-5-5
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の弱軸側の短期基準接合耐力(せん断)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部(アンカー型)のせん断試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。 ラミナ水平方向及びラミナ直角方向の2種類のせん断加力方向の単調試験結果より、降伏耐力の小さいラミナ直角方向で本試験(繰返し載荷6体)を行い弱軸側の短期基準接合耐力を評価した。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「FHD-50」1個×2箇所 材 質：SPHC(JIS G 3131^{*1}) 寸 法：105mm×105mm×235mm(外形) 板厚t=6mm ドリフトピン用孔 5-φ13mm ボルト用孔 1-φ36mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})^{*3}</p> <p>2) 接合具</p> <p>「FPN-105」5本×2箇所 材 質：SWRM8相当材として以下に掲げる鋼線^{*4} SWRM8(JIS G 3505^{*5}) SWRM10(JIS G 3505^{*5}) Q195(GB/T701-2008^{*6}) 寸 法：φ12mm L=103mm 先端7mm絞りφ9mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})^{*3}</p> <p>「丸座金t12.0×φ86」1個×2箇所 材 質：SS400(JIS G 3101^{*7}) 寸 法：φ86mm 長孔加工孔1-φ16mm 板厚t=12mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})^{*3}</p> <p>「丸座金t6.0×φ50」1個×2箇所 材 質：SPHC(JIS G 3131^{*1}) 寸 法：φ50mm 加工孔1-φ16mm 板厚t=6mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})^{*3}</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱：105mm×105mm×890mm スプルーース 同一等級構成構造用集成材 E95-F315 含水率：12.5~13.0% 全乾密度：0.37~0.41g/cm³</p> <p>*1 JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯 *2 JIS H 8610 電気亜鉛めっき *3 試験では生地を使用した *4 試験ではQ195を使用した *5 JIS G 3505 軟鋼線材 *6 中国国家标准規格(GB規格) *7 JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材</p>
6. 試験条件等	試験体の固定は試験体の中心軸から10mm偏芯した位置とし、M16全ねじボルト、ナット2個(ダブルナット)及び「丸座金t12.0×φ86」、「丸座金t6.0×φ50」を用いて、基礎を想定した鉄骨治具と強固に締め付けた。(試験結果は接合部1箇所あたりの数値を示す。)
7. 試験結果	短期基準接合耐力 10.4 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所：神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成29年2月8日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 宇山 善博 所 義登

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。